

科目区分	専門教育科目	授業科目名	薬学（薬理）基礎			科目コード	23L402	担当者	七條 和子			担当形態	単独	
対象学科・コース	生活創造学科 ビジネス・医療秘書コース	配当年次	2年次	開講学期	後期	単位数	2	必修・選択の別	選択	免許・資格要件	医療管理秘書士／診療実務士必修			
授業形態	講義	履修条件									教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	科目区分		
実務の経験を有する教員担当科目			実務の経験内容及び科目との関連										科目に含めることが必要な事項	

授業の主題	医薬品の性質や作用機序などの基礎的知識を理解する。わが国の医療制度の一助として理解する。	課題等への対応（フィードバックの方法等）	授業中に行われる小テストをしっかりとってほしい。小テストは採点し、必要に応じて解説を行う。
授業の方法	教科書を使用し、板書をしながら講義形式で行う。	アクティブ・ラーニングの実施方法	

回数	授業計画	事前・事後学修	回数	授業計画	事前・事後学修	
第1回	薬理学とは	薬理学の基礎を理解する	第9回	循環器系・血液に作用する薬	高血圧症の治療薬について理解する	
第2回	薬理学とは	医薬品の定義と分類を理解する	第10回	循環器系・血液に作用する薬	血栓塞栓症へのアプローチを理解する	
第3回	薬理学とは	薬はどのように作用するかを理解する	第11回	炎症・免疫系に作用する薬	抗炎症薬の種類と作用について理解する	
第4回	薬理学とは	主作用と副作用、有害作用を理解する	第12回	抗感染薬	抗菌薬が作用するしくみについて理解する	
第5回	神経系に作用する薬	抗うつ薬の種類と作用メカニズムを理解する	第13回	抗感染薬	抗ウイルス薬の種類と作用について理解する	
第6回	神経系に作用する薬	認知症の治療アプローチを理解する	第14回	泌尿器系に作用する薬	利尿薬の種類と作用メカニズムについて理解する	
第7回	呼吸器系に作用する薬	咳・痰に対するアプローチを理解する	第15回	内分泌系に作用する薬	脂質異常症の治療薬について理解する	
第8回	消化器系に作用する薬	胃酸分泌過剰に対するアプローチを理解する			事前・事後学修時間（分／授業1回）	180分／授業1回

教科書 [書名／著者名／出版社]	いちばんやさしい薬理学／木澤 靖夫／成美堂出版	受講生へのメッセージ	医療関係に就職を希望したり、薬のことを学びたい人にはとっておきの授業です。薬や医療制度の一助としての基本的な知識を習得しましょう。
参考書 [書名／著者名／出版社]	なし		

評価基準																
	学修成果の大分類	学修成果の中分類 [10の力]	学修成果の 配点比率(%)	評価方法の配点比率(%)					学修成果の小分類			尺度				
				定期試験	臨時試験	提出物	発表内容	受講態度	実習評価	学修成果の到達目標	修得する能力	評価方法/評価指標	レベル5 (S: 100~90%)	レベル4 (A: 89~80%)	レベル3 (B: 79~70%)	レベル2 (C: 69~60%)
観点	尽心	① 誠実性														
		② 倫理観														
	知識・技能	③ 知識	70	40	30				医薬品の基礎的知識を十分に理解しており、他者に説明できる。	医薬品の基礎的知識を医療制度の一助として理解する能力	筆記試験	医薬品の基礎的知識を十分に理解しており、他者に説明できる。	医薬品の基礎的知識を十分に理解しており、他者にある程度説明できる。	医薬品の基礎的知識を理解しており、他者に説明できる。	医薬品の基礎的知識をある程度理解しており、他者に説明できる。	医薬品の基礎的知識の理解が不十分であり、他者に説明できない。
		④ 技能														
	創造	⑤ 数量的スキル														
		⑥ 問題解決力														
	表現	⑦ 言語的スキル														
		⑧ コミュニケーションスキル														
	実践	⑨ 主体性	30				15	15	医薬品の基礎的知識を主体的に身に着け活用している。	医薬品の性質や作用機序などの基礎的知識	受講態度	医薬品の基礎的知識を主体的に身に着け活用している。	医薬品の基礎的知識を必要に応じて身に着け活用している。	医薬品の基礎的知識を与えられて身に着け活用している。	医薬品の基礎的知識を身に着けているが活用していない。	医薬品の基礎的知識を身に付けておらず活用できていない。
		⑩ 協働性														
合計			100	40	30			15	15							